

平成24年度

1丁目 春季モニタリング調査の結果概要

(施工開始から9ヵ月後の状況)

平成24年5月調査実施

平成24年8月

# 平成24年度モニタリング調査計画

※赤文字部分が今回の調査内容を示す。

項目	目的	方法	時期 (間隔)	数量等
地形	<ul style="list-style-type: none"> <li>●護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握</li> <li>●洗掘等による周辺地形の変化の把握等</li> </ul>	深浅測量 (水深の浅い水際部は汀線測量)	春季：5月 秋季：10月頃の年2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>●護岸改修範囲の岸沖方向100m×(31測線) = 測線延長3,100m</li> <li>●測線No.10、測線No.20の岸沖方向500m×(2測線) = 測線延長1,000m 合計4,100m</li> </ul>
底質	<ul style="list-style-type: none"> <li>●護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握</li> <li>●底質(粒度組成)の変化の把握</li> </ul>	採泥・粒度試験	春季：5月 秋季：10月頃の年2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>●測線No.10、測線No.20において、各測線4箇所です採泥(17m、50m、100m、500m地点) : 合計8検体</li> </ul>
海生生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>●護岸部への潮間帯生物の再定着状況の把握</li> <li>●護岸前面海域の底生生物の生息状況の把握</li> </ul>	ベルトトランセクト法による観察	春季：5月 秋季：10月頃の年2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>●測線SL-1(No.10)、測線SL-2(No.20)の2測線のうち、基点から100mの範囲</li> <li>●護岸(斜面上)：方形枠(50cm×50cm)による連続目視観察</li> <li>●高潮帯から護岸のり先まで1m間隔</li> <li>●旧護岸法線より20~100mは10m間隔</li> </ul>
		採取分析		<ul style="list-style-type: none"> <li>●測線SL-1、測線SL-2の2測線における採取分析</li> <li>●1測線当り高、中、低潮帯、のり先の4検体 : 合計8検体</li> </ul>

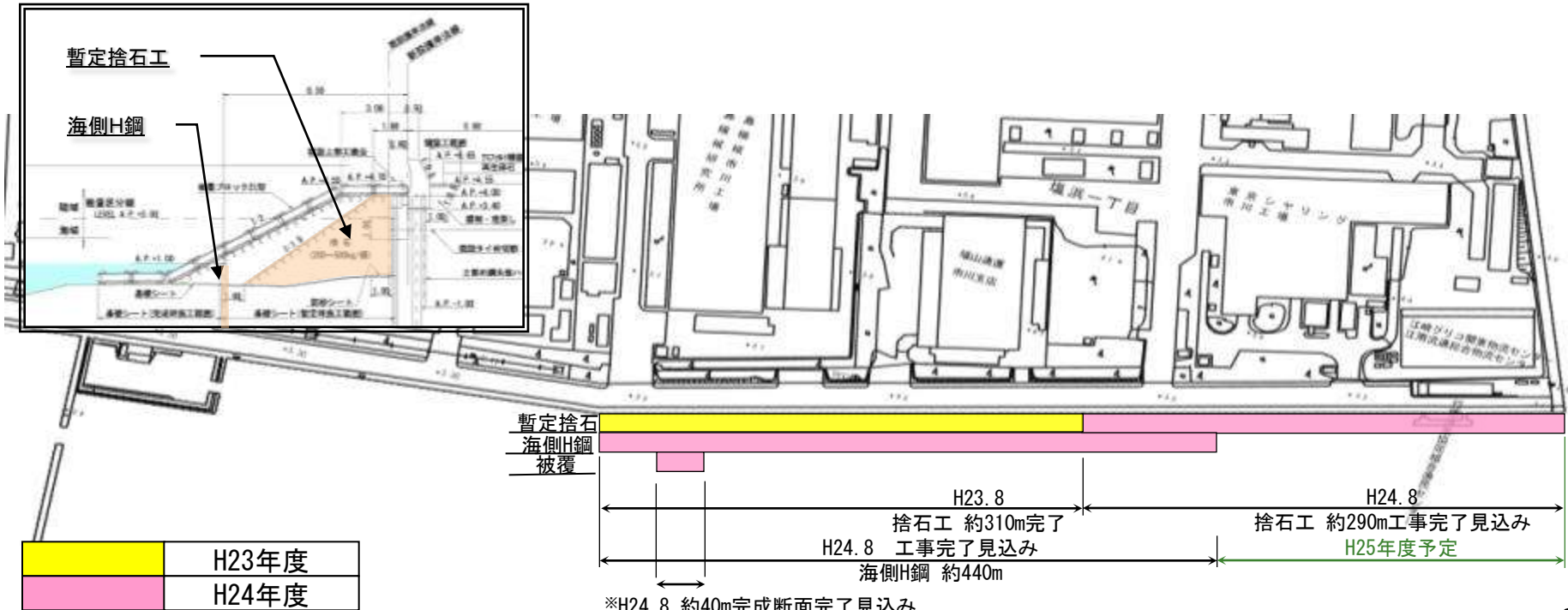
# 市川市塩浜護岸改修事業の状況について

## (塩浜1丁目)

- ・H23年8月 捨石が約310m完了
- ・H24年4月 海側H鋼工事着手
- ・H24年8月末 暫定捨石工事完了見込み
- ・H24年8月末 海側H鋼工事約440m完了見込み(起点側より)
- ・H24年8月末 約40mの完成断面※完了見込み



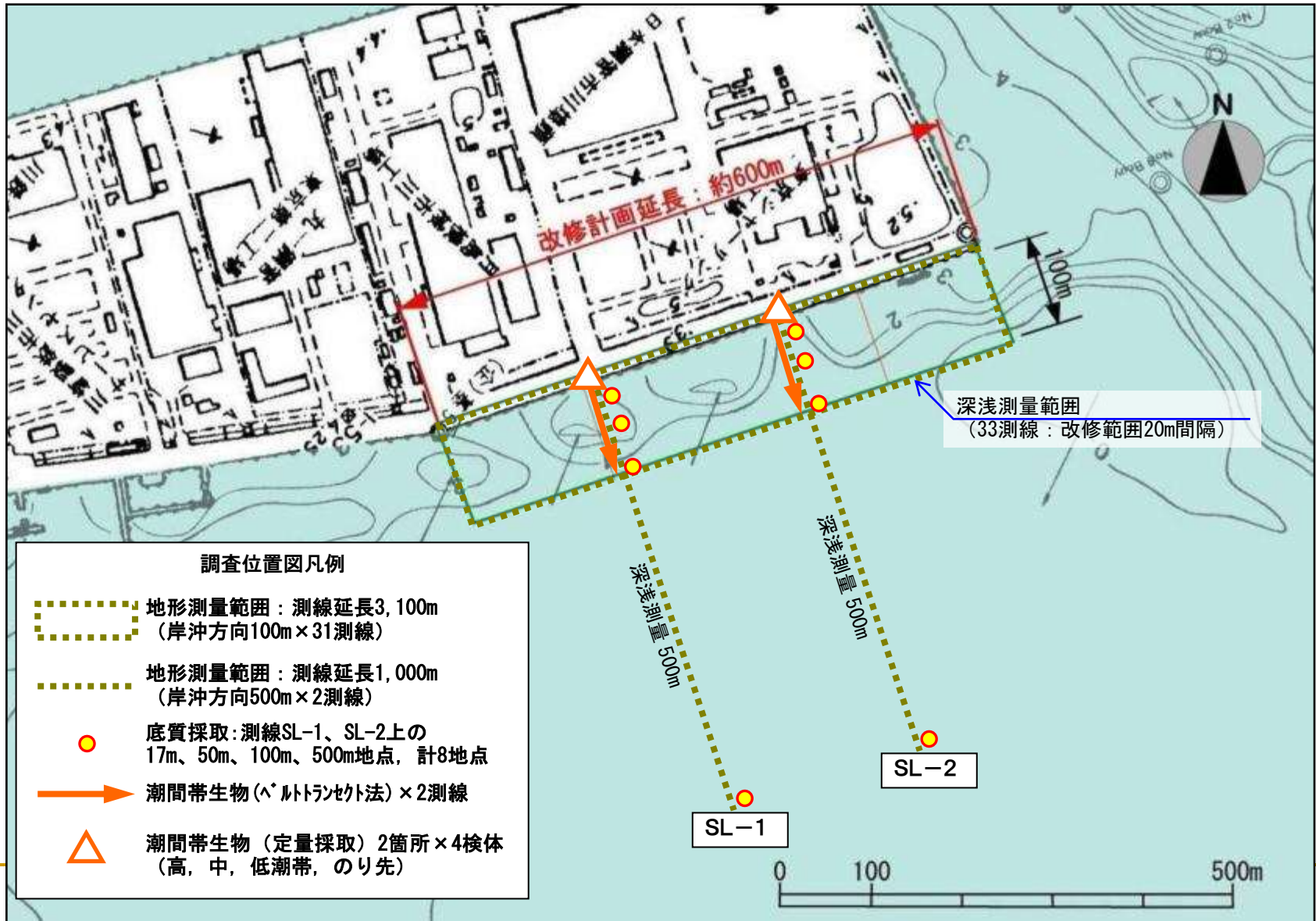
標準断面図



# 平成24年度春季モニタリング調査の総括表

調査項目	結果概要	検証基準 (参考)
(1)地形の変化状況	著しい地形変化は見られなかった。	施工前の海底面に対して <b>±0.6m以内。</b>
(2)底質の状況	工事実施中の範囲外においては、検証基準を超える値は観測されなかった。	護岸法先17m及び100mの地点で泥分が <b>30%を超えない。</b>
(3)潮間帯生物の確認状況	それぞれの観測地点において、平均確認種数は、施工前と同程度であった。	護岸部、高・中・低潮帯観測地点で、年間の <b>平均確認種数が3種以上。</b>

# 平成24年度モニタリング調査位置



# 1 地形調査結果

調査方法 : 音響測深器による深浅測量及び汀線測量による

## これまでの調査実施状況

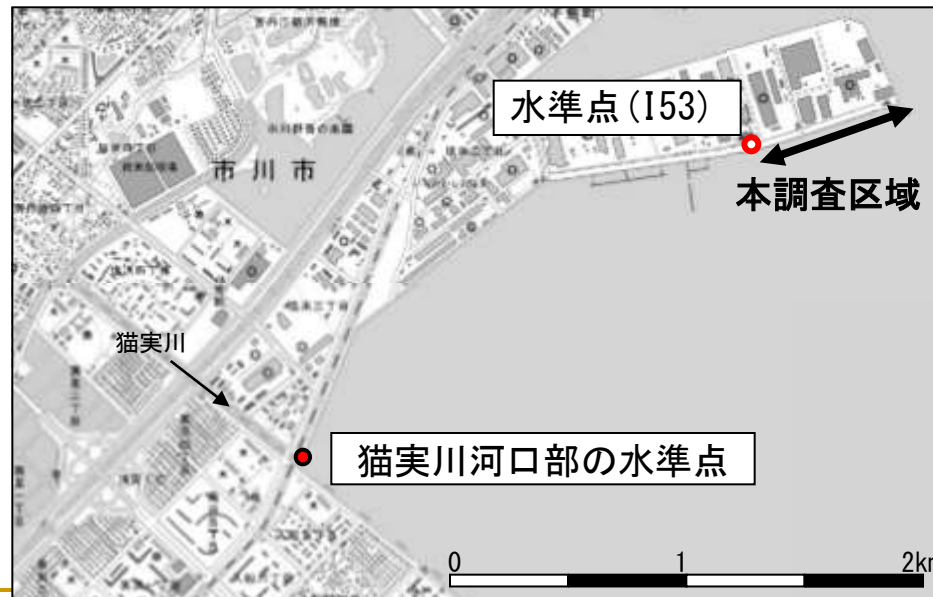
施工後の経過年	調査年月
施工前	H21年11月
SL-1施工後 約2ヵ月後	H23年10月
〃 約9ヵ月後	H24年 5月



石積護岸部（捨石工）周辺の状況  
(H24年5月21日)

## 地形調査結果の留意事項 ー水準点(高さの基準)についてー

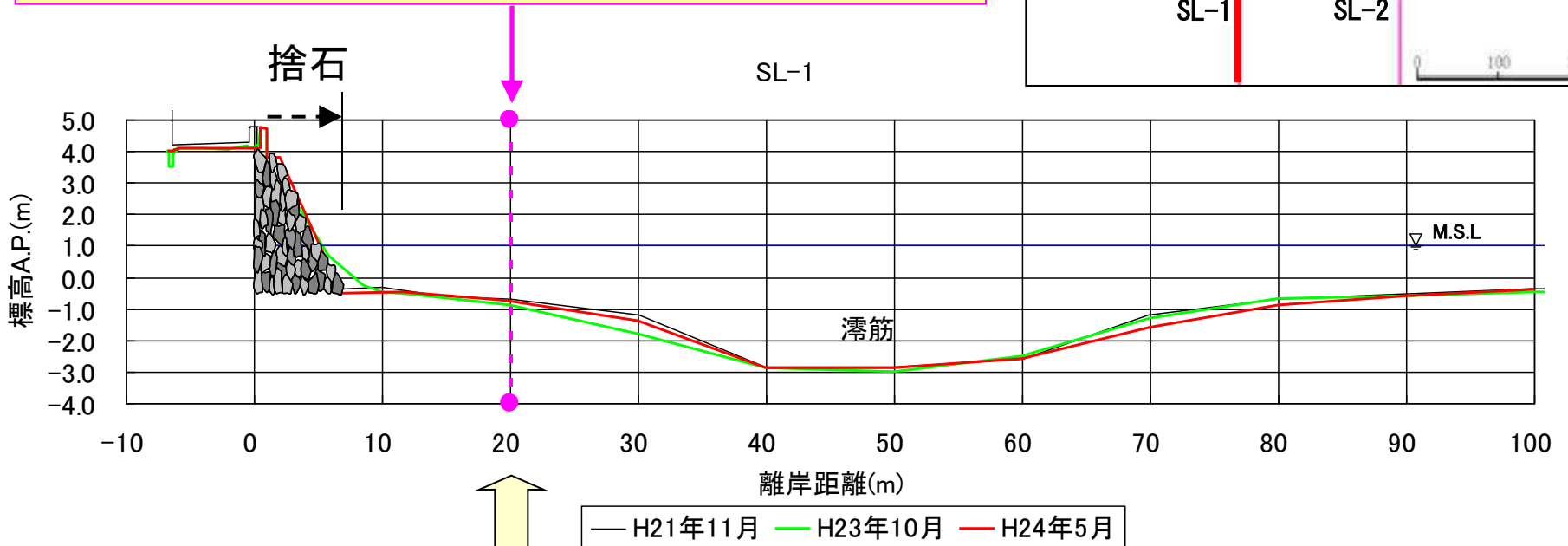
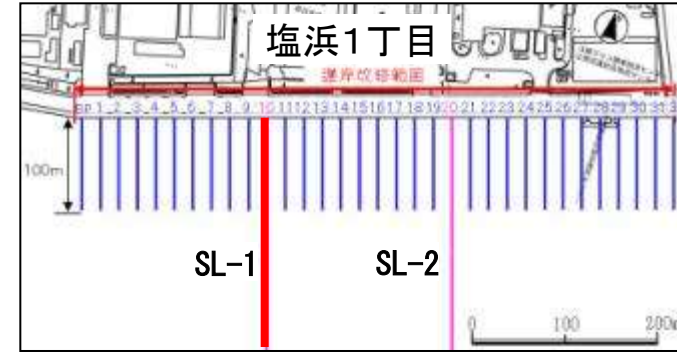
- これまで地形調査の高さの基準としてきた「水準点 (I53)」は、震災後の高さが、公表されていない。
- 今回調査では、震災後の高さを測量した“猫実川河口部の護岸高”※を基準（水準点）として、地形測量を実施した。  
※「平成23年度県単河川調査及び県単河川管理合併委託（河川測量）」（H24年2月～3月測量）より
- 猫実川河口部の高さを基準として測量した結果、「水準点 (I53)」のほか、塩浜1丁目の地盤高は、震災前の高さより約10cm低下していることがわかった。
- したがって、今回の高さの結果は、前回のH23年10月までの測量結果の高さよりも、一様に約10cm程度低下していることに留意が必要である。



## 地盤高の経時変化

### SL-1 (捨石工)

20m地点における著しい地形変化はみられない。



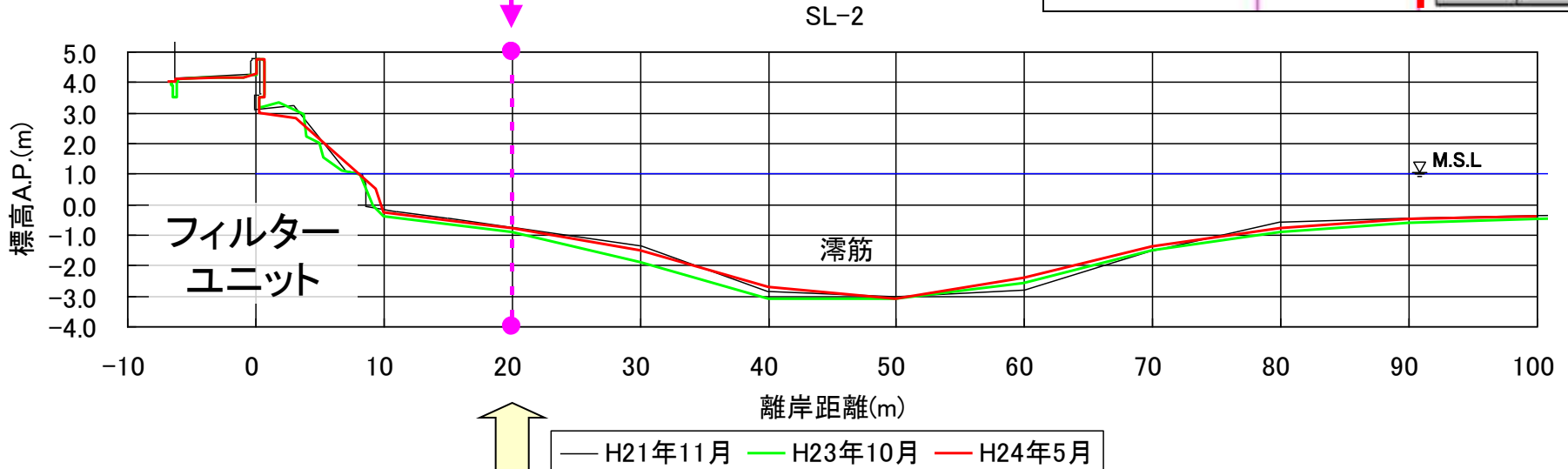
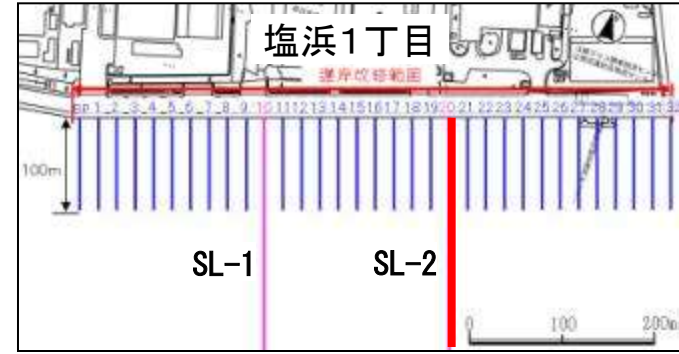
施工前(H21年11月)と比較して地形変化は-7cm程度であった。



## 地盤高の経時変化

### SL-2 (既設護岸：未着手)

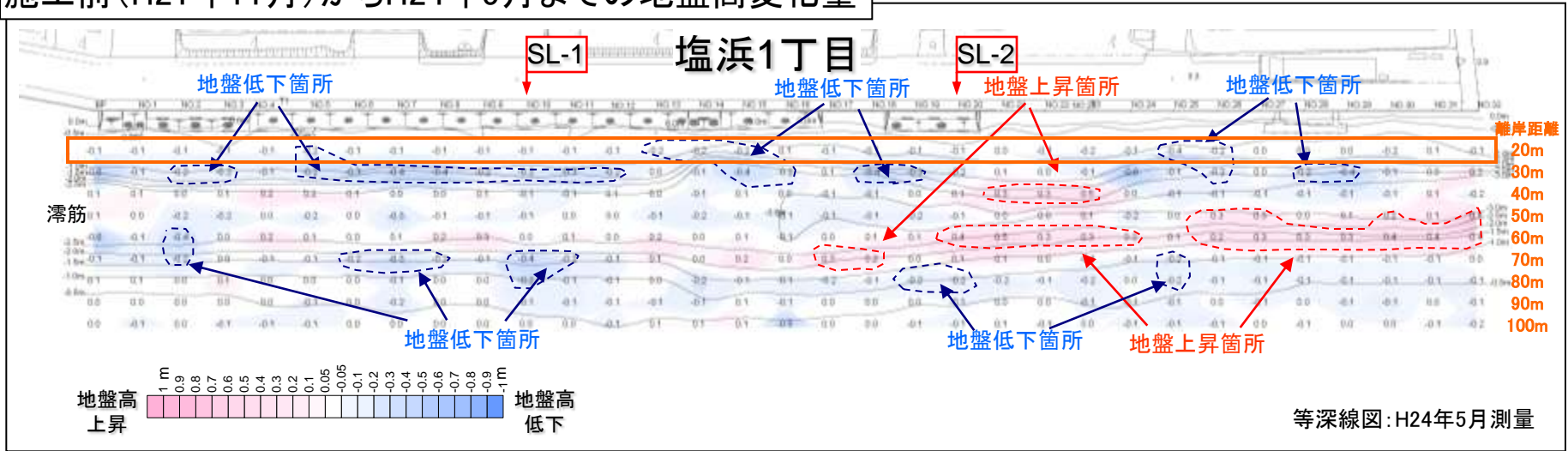
20m地点における著しい地形変化はみられない。



施工前(H21年11月)と比較して地形変化は-7cm程度であった。

## 護岸改修範囲前面の地盤高上昇・低下の状況 (施工前 (H21年11月) ~H24年5月の約2年6ヵ月間)

施工前 (H21年11月) からH24年5月までの地盤高変化量



- ・護岸改修範囲前面の検証場所である離岸距離20mの状況については、基準となる値(±0.6m)を超える箇所は確認されなかった。
- ・測量範囲全体では、滞筋法面(水深1~2m付近)で地盤の低下、滞筋底部から法面(水深2~3m付近)にかけて地盤の上昇する箇所がみられた。